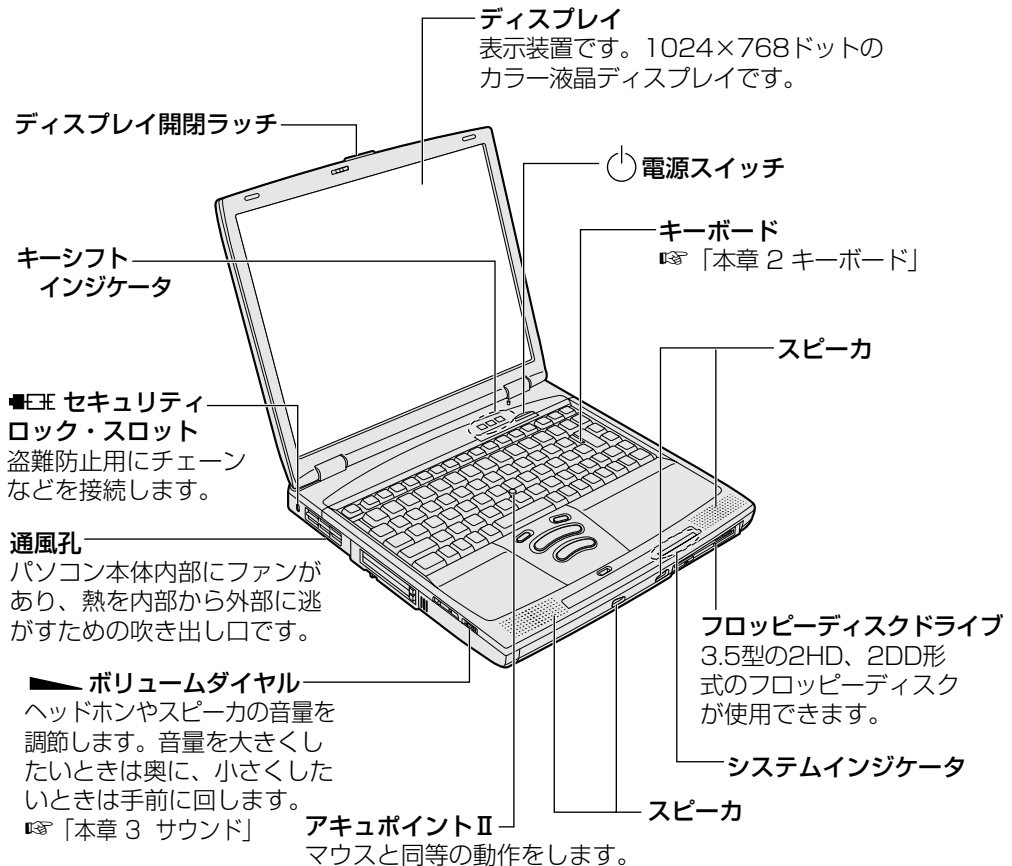
3

本体の機能

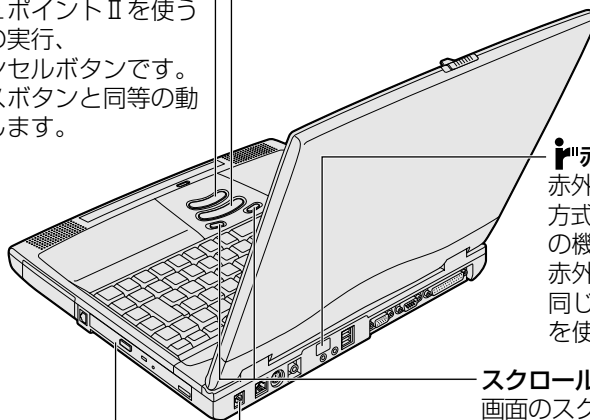
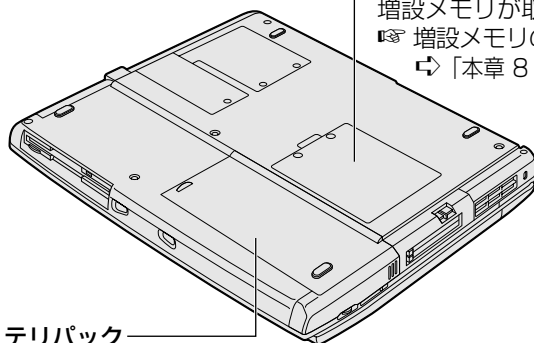
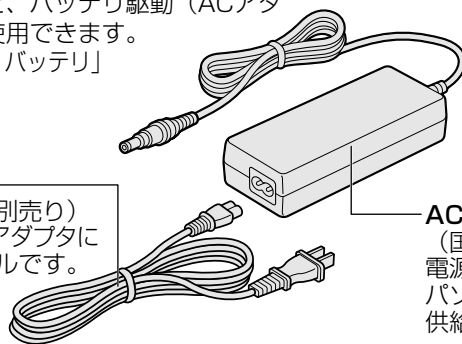
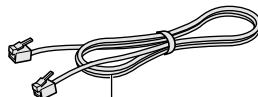
本章では、本製品に用意されている機能と、
接続できる周辺機器について説明します。

1 各部の名称

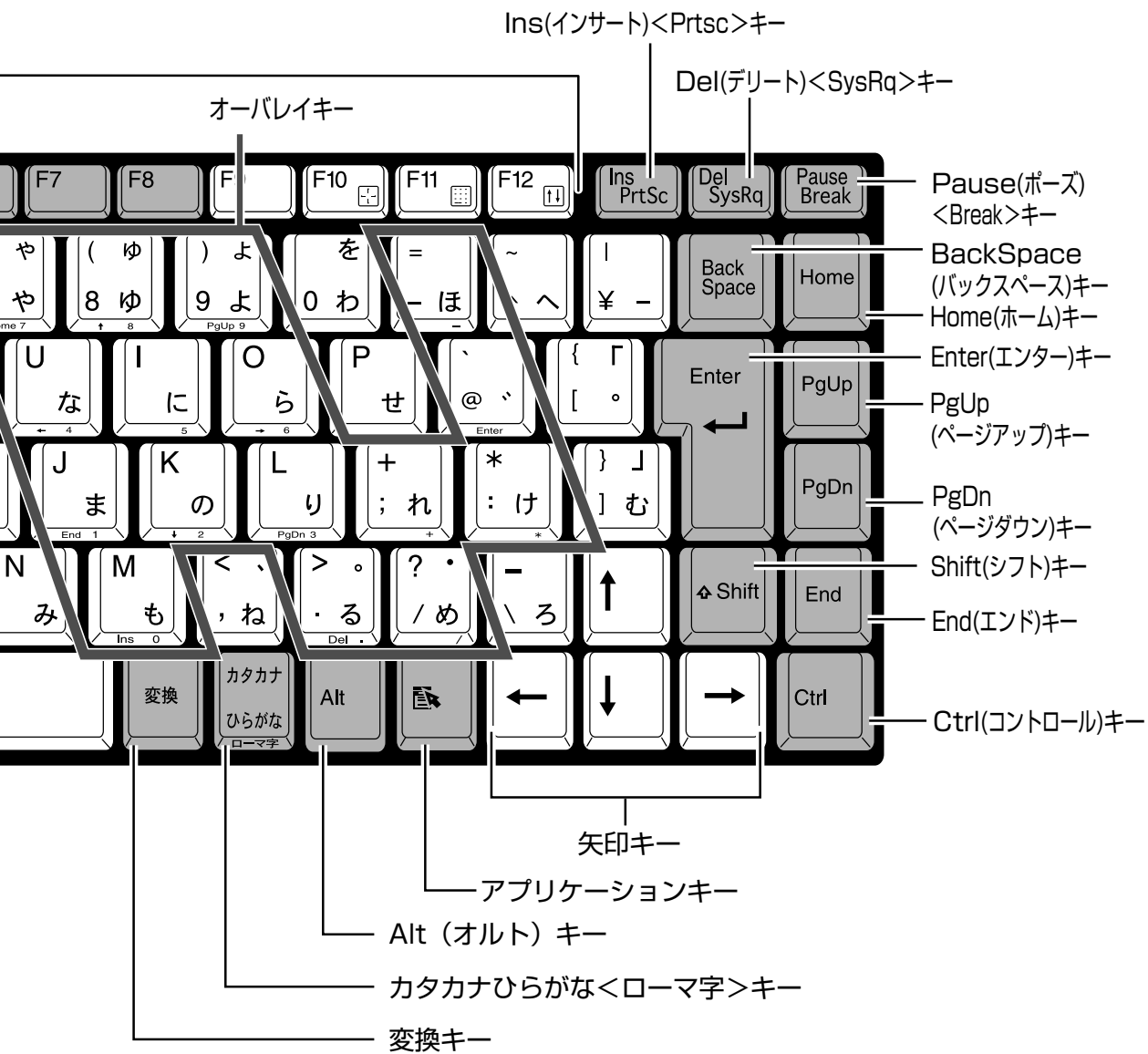
ここでは、各部の名称と機能を簡単に説明します。各部についての詳しい説明は、それぞれに関連する章で行います。周辺機器を取り付ける場所については、「本章 9 周辺機器の接続」で説明します。

インジケータ

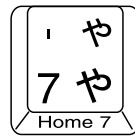
それぞれは、次の状態を示します。

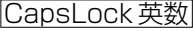
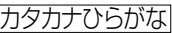
キーシフトインジケータ		
A	Caps Lock LED	文字入力の「大文字ロック状態」 ☞「本章 2- 入力に関する制御キー」
	Arrow Mode LED	文字入力の「アロー状態」 ☞「本章 2- Fnキーを使った特殊機能キー」
	Numeric Mode LED	文字入力の「数字ロック状態」 ☞「本章 2- Fnキーを使った特殊機能キー」
システムインジケータ		
	DC IN LED	電源コードの接続　☞「1章 1-3 電源に関する表示」
	Power LED	電源の状態　☞「1章 1-3 電源に関する表示」
	Battery LED	バッテリの状態 ☞「本章 4-3 バッテリ充電量の確認をする」
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている
/	FDD/CD-ROM LED	フロッピーディスクドライブかドライブにアクセスしている

コントロールボタン
アキュポイントⅡを使う場合の実行、キャンセルボタンです。マウスボタンと同等の動作をします。
赤外線ポート
赤外線ポートを使って、IrDA方式の赤外線ポートを持つ他の機器と通信が行えます。
赤外線通信を行う機器は、同じ通信用アプリケーションを使用してください。
スクロールボタン
画面のスクロールなどができます。
電源コネクタ
付属のACアダプタを接続します。
ドライブ
内蔵されているドライブの種類は、ご購入のモデルによって異なります。
☞ 使用できるCD／DVDについて ➪「本章 6-1 CD／DVD」
増設メモリスロット
増設メモリが取り付けられます。
☞ 増設メモリの取り付けについて ➪「本章 8 増設メモリ」
バッテリパック
バッテリパックを充電すると、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用できます。
☞ 詳細について ➪「本章 4 バッテリ」
電源コード
（国内専用、海外用は別売り）
電源コンセントからACアダプタに電源を供給するケーブルです。
ACアダプタ
（国内、海外兼用）
電源コネクタに接続し、パソコン本体に電源を供給します。
アキュポイント予備キャップ
モジュラーケーブル
＊モデム内蔵モデルのみ
電話回線と内蔵モデムを接続するケーブルです。

② キーボード

キーボードの使いかたはソフトウェアによって違ってきますが、ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

Ins(インサート)<Prtsc>キー
Del(デリート)<SysRq>キー
オーバレイキー
Pause(ポーズ)
<Break>キー
BackSpace
(バックスペース)キー
Home(ホーム)キー
Enter(エンター)キー
PgUp
(ページアップ)キー
PgDn
(ページダウン)キー
Shift(シフト)キー
End(エンド)キー
Ctrl(コントロール)キー
矢印キー
アプリケーションキー
Alt（オルト）キー
カタカナひらがな<ローマ字>キー
変換キー

文字キー

文字や記号を入力するときに使うキーを文字キーと呼びます。
文字キーには２～６種類の文字や記号が印刷されています。どの文字や記号が入力されるかは制御キーとの組み合わせなどで異なります。
文字キーに印刷された文字や記号を入力する場合、どのように操作したらいいか、次の文字キーを例に説明します。

入力したい文字や記号	入力操作	内容
左上の文字や記号	Shift キーを押しながら押す	記号やアルファベットの大文字が入力できます（この場合は「 ' 」）。 ☞「本節 - 主なキーの呼びかたと役割」
右上の文字や記号	カナロック状態で Shift キーを押しながら押す	記号、カタカナの促音、拗音が入力できます（この場合は「ャ」）。 ☞ カナロック状態 ➪「本節 - 入力に関する制御キー」
左下の文字や記号	そのまま押す	数字やアルファベットの小文字が入力できます（この場合は「7」）。
右下の文字や記号	カナロック状態のときに押す	カタカナや記号が入力できます（この場合は「ヤ」）。 ☞ カナロック状態 ➪「本節 - 入力に関する制御キー」
前面左の文字や記号	アロー状態のときに押す	カーソル制御キーとして使えます（この場合は Home キー）。 ☞ アロー状態 ➪「本節 - Fn キーを使った特殊機能キー」
前面右の文字や記号	数字ロック状態のときに押す	テンキーとして使えます（この場合は「7」）。 ☞ 数字ロック状態 ➪「本節 - Fn キーを使った特殊機能キー」

・ ＼ （バックスラッシュ）を入力すると、「¥」と表示されます。

主なキーの呼びかたと役割

キー	内容
Esc（エスケープ）	操作を取り消すときに使います。
Shift（シフト）	アルファベットの英大文字、英小文字入力の一時的な切り替えや記号などを入力するときに使います。
Alt（オルト） Ctrl（コントロール）	他のキーと組み合わせて、特定の操作を実行するときなどに使います。
（ウィン）	Windowsのスタートメニューを表示するときに使います。また、他のキーと組み合わせて、ショートカットとして使うこともできます。
Space（スペース）	空白文字を入力するときや、入力した文字をかな漢字変換するときに使います。
（アプリケーション）	マウスの右ボタンおよびコントロールボタンの下ボタンをクリックすることと同様の動作を行いたいときに使います。
Fn（エフエヌ）	オーバレイキーを使用するときに使います。また、ファンクションキーとの組み合わせにより特殊機能を実行するときに使用します。
Ins（インサート）	文字の入力モードを挿入／上書きに切り替えるときに使います。
Del（デリート）	文字を削除するときなどに使います。
→ ← ↑ ↓（矢印）	カーソル移動などに使います。
Enter（エンター）	作業を実行するときなどに使います。
F1～F12（ファンクション）	特定の操作を実行するときなどに使います。

上の表の各内容は、お使いの日本語入力システムやアプリケーションにより変わることがあります。

入力に関する制御キー

キー入力で、よく使う制御キーは次のものがあります。

キー	内容
98 Ctrl＋CapsLock 英数 2000 Ctrl＋Shift＋カタカナひらがな	カナロック状態になります。この状態で文字キーを押すと、キートップ右下に印刷されたひらがなを、カタカナで入力できます。
Shift＋CapsLock 英数	大文字ロック状態になります。この状態で文字キーを押すと、キートップ左上に印刷された英字などの文字を、大文字で入力できます。

カナロックや大文字ロック状態を解除するには、もう1度同じキー操作をします。
ロック状態の優先度は、カナロック状態＞大文字ロック状態です。

Fn キーを使った特殊機能キー

キー	内容
Fn＋F1 〈インスタントセキュリティ機能〉	表示画面をオフにし、キーボードやマウスから入力できなくします。 解除するには、パスワードを設定している場合はパスワードを入力し、Enter キーを押します。 パスワードを設定していない場合はEnter キーまたはF1 キーを押します。 ☞ パスワードについて ➪「5 章 4 パスワードセキュリティ」
Fn＋F2 〈省電力モードの設定〉	Fn ＋ F2 キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが反転表示されます。 Fn キーを押したまま、F2 キーを押すたびに省電力モードが切り替わります。
Fn＋F3 〈電源 ON ／ OFF 時に使用する機能の選択〉	電源を切る状態（スタンバイ、休止状態、電源オフ）を切り替えます。Fn キーを押したまま、F3 キーを押すたびに表示が切り替わり、電源スイッチを押したときに実行する機能が設定されます。
Fn＋F4 〈アラーム音量の調節〉	アラーム音量を調節します。ビープ音で音量を知らせます。 Fn キーを押したまま、F4 キーを押すたびに音量が変わります。 →Off→小→中→大
Fn＋F5 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 ☞ 詳細について ➪「本章 9- CRT ディスプレイやテレビを接続した場合」
Fn＋F10 （アロー状態） 〈オーバレイ機能〉	キートップ前面左側に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます。 アロー状態を解除するには、もう 1 度Fn＋F10 キーを押します。
Fn＋F11 （数字ロック状態） 〈オーバレイ機能〉	キートップ前面右側に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます。 数字ロック状態を解除するには、もう 1 度Fn＋F11 キーを押します。
Fn＋F12 （スクロールロック状態）	一部のアプリケーションで↑ ↓ ← → キーを画面スクロールとして使用できます。 ロック状態を解除するには、もう 1 度 Fn＋F12 キーを押します。

⊞キーを使ったショートカットキー

⊞キーと他のキーとの組み合わせにより、次のようにショートカットとして使用できます。

キー	操作
⊞＋R	［ファイル名を指定して実行］画面を表示する
⊞＋M	すべてをアイコン化する
Shift＋⊞＋M	すべてのアイコン化を元に戻す
⊞＋F1	『Windows のヘルプ』を起動する
⊞＋E	Windows エクスプローラを起動する
⊞＋F	ファイルまたはフォルダを検索する
Ctrl＋⊞＋F	他のコンピュータを検索する
⊞＋Tab	タスクバーのボタンを順番に切り替える
⊞＋Break	［システムのプロパティ］画面を表示する

特殊機能キー

複数キーの組み合わせで、特殊機能を実行することができます。

特殊機能	キー	内　容
システムの再起動	Ctrl＋Alt＋Del	98 プログラムの強制終了画面が表示されます。もう 1 度押すと、システムを再起動します。 2000 Windows のセキュリティ画面が表示されます。
画面コピー	Fn＋Ins	現在表示中の全体画面をクリップボードにコピーします。
	Alt＋Fn＋Del	現在実行中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

・ Windows 98の場合、システムが操作不能になったとき以外は Ctrl＋Alt＋Del キーは使用しないでください。データが消失するおそれがあります。

日本語入力システム

本製品には、日本語入力システム MS-IME が標準装備されています。
MS-IME のバージョンはお使いになるモデルによって異なります。

MS-IME2002 ：すべてのシステムのアプリケーションモデル
MS-IME2000 ：Windows 2000 モデル
MS-IME98 ：Windows 98 モデル

日本語入力システムの起動

漢字変換が行えるように日本語入力システム MS-IME を起動するには、いくつかの方法があります。

MS-IME2002 の場合

- ここをクリックし、メニューから「ひらがな」を選択する
- 半／全 キーを押す

漢字変換が行えるようになると、ツールバーは次のようになります。

MS-IME2000 ／ MS-IME98 の場合

- ここをクリックし、メニューから「ひらがな」を選択する
- タスクバーのアイコン（ ）をクリックし、「日本語入力-オン」を選択する
- 半／全 キー（MS-IME2000 の場合）または Alt ＋ 半／全 キー（MS-IME98 の場合）を押す

漢字変換が行えるようになると、ツールバーは次のようになります。

入力モード

ローマ字入力が既定値になっています。
ローマ字入力とかな入力は次の方法で切り替えられます。

98：Alt＋カタカナひらがなキー
2000：Ctrl＋Shift＋カタカナひらがなキー

この場合、パソコンを再起動するとローマ字入力に戻ります。
常に同じ入力モードで使用する場合は、次の方法で設定します。

MS-IME2002の場合

①ツールバーの［ツール］アイコン（ ）または［入力方式］アイコン（ ）をクリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする
②［全般］タブで［ローマ字入力／かな入力］の設定をする

MS-IME2000／MS-IME98の場合

①ツールバーの［プロパティ］アイコン（ ）をクリックする
②［全般］タブで［ローマ字入力／かな入力］の設定をする

漢字変換

入力した文字を漢字変換するには、Spaceキーを押します。
目的の漢字ではない場合は、もう1度 Spaceキーを押して、他の漢字を表示します。
さらに Spaceキーを押すと、候補の一覧が表示されます。
↑ ↓ キーで選択し、Enterキーを押します。

☞ MS-IMEの使いかた ➪『MS-IMEのオンラインヘルプ』

・MS-IME2000／MS-IME98の場合、ツールバーの［ヘルプ］アイコン（ ）をクリックし、［目次とキーワード］をクリックすると、MS-IMEのオンラインヘルプを見ることができます。
・MS-IME2002でのオンラインヘルプの起動は、次の方法があります。
　・ツールバーの［ヘルプ］アイコン（ ）をクリックし、［Microsoft(R) IMEスタンダード2002］-［目次とキーワード］をクリックする
　・ツールバーの［ツール］アイコン（ ）をクリックし、［ヘルプ］-［目次とキーワード］をクリックする
　・ツールバーの［入力方式］アイコン（ ）をクリックし、［目次とキーワード］をクリックする

③ サウンド

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカを用意しています。

☞ スピーカについて ➪「本節 1 スピーカの音量を調整する」
☞ システムスピーカについて ➪「本節 2 システムスピーカについて」

1 スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。
サウンド機能は Microsoft Windows Sound System、および Sound Blaster Pro に適合しています。サウンドに関する設定については、あわせて『Windows のヘルプ』や『ボリュームコントロールのヘルプ』をご覧ください。

ボリュームダイヤルで調整する

本体左側面のボリュームダイヤルで調整します。
音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。

☞ ボリュームダイヤル ➪「本章 1 各部の名称」

［音量］アイコンから調整する

タスクバーの［音量］アイコン（🔈）からスピーカの音量を調整することもできます。

1 タスクバー上の［音量］アイコン（🔈）をクリックする

次の画面が表示されます。

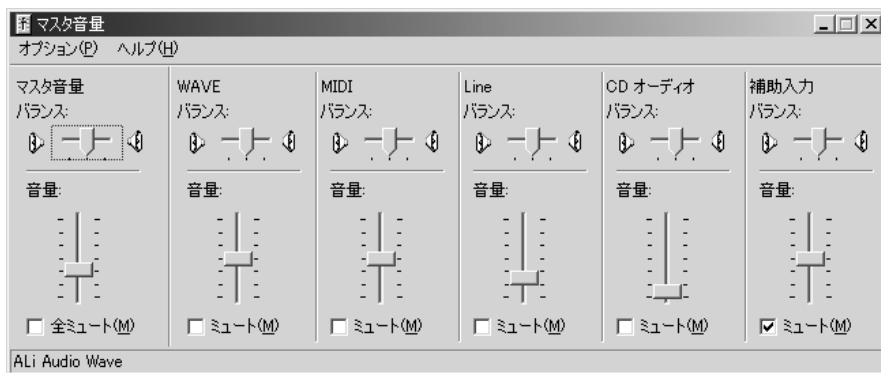
2 つまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。［ミュート］をチェックすると消音になります。

・使用するアプリケーションによっては、外部マイクとスピーカでハウリングを起こし、高く大きな音が発生することがあります。この場合は、次のようにしてください。
　・本製品のボリュームダイヤルで音量を調整する
　・使用しているアプリケーションソフトの設定を変える
　・外部マイクをスピーカから離す

ボリュームコントロールで調整する

1 タスクバー上の［音量］アイコン（ ）をダブルクリックする
または、
［スタート］-［プログラム］-［アクセサリ］-［エンターテイメント］-［ボリュームコントロール］をクリックする

ボリュームコントロールが起動します。

（表示例）

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する
つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。ミュートをチェックすると消音となります。

詳しくは、『ボリュームコントロールのヘルプ』をご覧ください。

2 システムスピーカについて

パソコンのハードウェアの状態を知らせるシステムスピーカがあります。システムスピーカを鳴らす／鳴らさないの設定ができます。ご購入時は「鳴らす」に設定されています。また、あわせて、音量の調整もできます。

設定方法

1 ［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

2 ［東芝 HW セットアップ］をダブルクリックする

3 ［アラーム］タブで設定する
鳴らす場合は［システムビープ音を鳴らす］をチェックします。
音量は［アラーム音量］のスライダーバーで調整します。

・システムスピーカの音量の調整は、Fn＋F4キーを使用して変更することもできます。
☞「本章 2-Fnキーを使った特殊機能キー」

バッテリ

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。
バッテリを充電して、または充電したバッテリパックと交換して、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。
ご購入時は、バッテリは十分に充電されていません。
バッテリ駆動で使う場合は、ACアダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させます。
充電を完了（フル充電）しなくても使えますが、使用できる時間は短くなります。

1 バッテリを充電する

ここでは、充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

充電方法

1 パソコン本体を電源に接続する

DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
パソコン本体にACアダプタを接続すると、電源のON/OFFに関わらず常時充電されます。

☞ 電源の接続 ➪「1章 1-1 電源に接続する」

2 Battery LEDが緑色になるまで通電する

バッテリが充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

☞ Battery LEDについて ➪「本節 3 バッテリ充電量の確認をする」

充電時間

充電時間の目安は次のとおりです。

状態	充電時間
電源ＯＮ時	約4〜10時間
電源ＯＦＦ時	約3時間

（注）周囲の温度が低いとき、周辺機器を取り付けている場合など、パソコンの使用状況によってこの時間よりも長くかかることがあります。

警 告 ・バッテリパックの使用中、充電中、保管時に異臭・発熱・変色・変形など異常が発生した場合は、すぐにパソコン本体から取りはずしてください。

注 意 ・バッテリパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
・バッテリパックを水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
発熱したり、サビなどのおそれがあります。
・バッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常と思われるときは使用しないでください。
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

❷ バッテリの使用時間

電源として使われるバッテリの使用時間は、充電量や使用状態により多少差があります。

注 意 ・バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。
バッテリ（バッテリパック、時計用バッテリ）を使いきってしまうと、スタンバイ機能が効かなくなり、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリを充電するために、AC アダプタを接続して充電してください。

バッテリでの使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。
次の時間は目安にしてください。

●充電完了の状態で使用した場合

省電力モード	動作時間
標準	約2時間

※ノーマルモードです。

（注）当社使用のプログラムで計測

・スタンバイ機能を実行したいときは、放電しきるまでの時間が短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使用しないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減少します。
この場合も放置環境などに左右されますので、保持時間は、目安にしてください。

●フル充電した状態で電源を切った場合

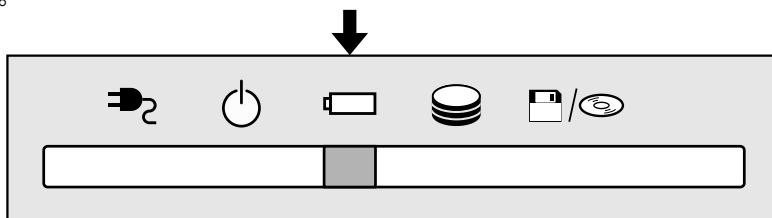
パソコン本体の状態	保持時間
スタンバイ	約5日間
電源切断（シャットダウン） 休止状態	約3週間

3 バッテリ充電量の確認をする

バッテリ駆動で使う場合、バッテリ充電量を確認しておかないと使用中にバッテリの充電量が減少し、途中で作業を中断したり、あわてて AC アダプタを接続することになります。

バッテリ充電量を確認するには、次の方法があります。

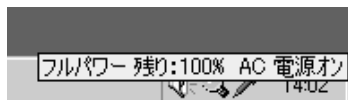
Battery ▭ LED で確認する

次のシステムインジケータの図で矢印の付いているものが、バッテリの状態を示すアイコンです。

Battery ▭ LED は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・バッテリが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリ異常

アイコンで確認する

タスクバーの［省電力］アイコン の上にマウスポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。

● AC アダプタを接続している場合

●バッテリ駆動で使用している場合

（表示例）

このときバッテリ充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリ駆動で使用している場合には、バッテリ動作予想時間も表示されます。

・タスクバーに表示される［省電力］アイコンの絵は現在使用されている省電力モードにより変わります。

・「東芝省電力ユーティリティ」の［電源設定］タブの設定内容によっては、タスクバーに［省電力］アイコンが表示されません。表示させたいときは、［電源設定］タブで［タスクバーに省電力モードの状態を表示する］をチェックしてください。

④ バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリ充電量の減少が進むと、次のように警告します。

●Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリの減少を示しています）
●警告音（ビープ音）が鳴る

この場合はただちにACアダプタを接続し、電源を供給してください。

・長時間使用しないで自然に放電しきってしまったときは、警告音でもBattery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

⑤ バッテリパックを交換する

警告 ・**バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、指定の製品をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発煙、火災のおそれがあります。**

・Wake-up on LAN機能を有効にした状態でスタンバイ機能を実行し、バッテリパックを交換するとデータが失われます。
バッテリパックを交換する際は、Wake-up on LAN機能を無効にして行なってください。

取りはずし／取り付け

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

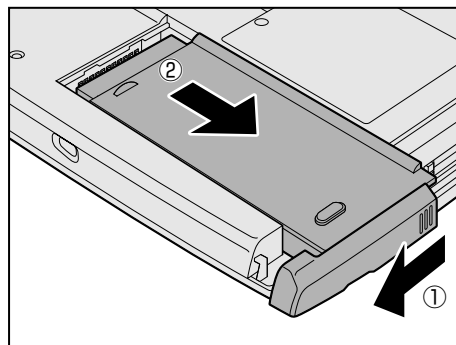
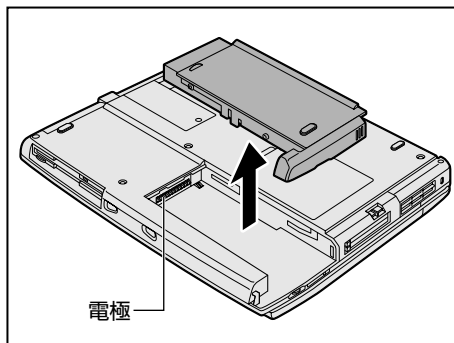
注意 ・**バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイ機能を実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。**

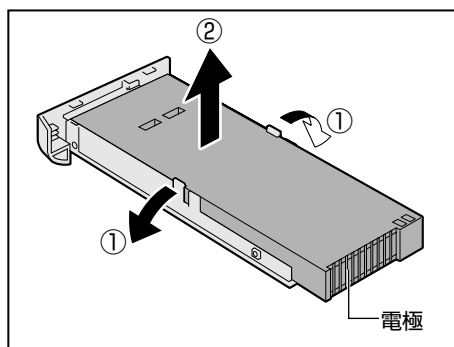
休止状態を使用すると、再起動にかかる時間が短くてすみます。
電源の切りかた、および休止状態を使用する方法については、「2章 電源を入れる／切る」をご覧ください。

☞ スタンバイ機能、休止状態について ➪「4章 消費電力を節約する」

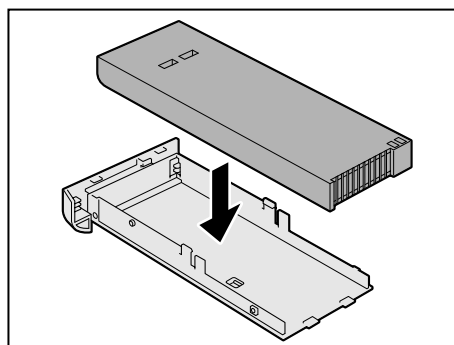
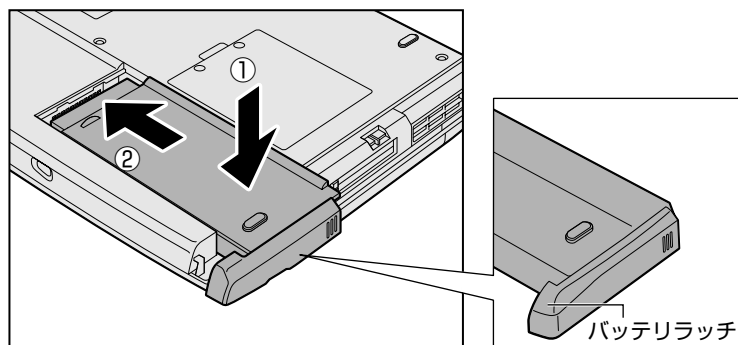
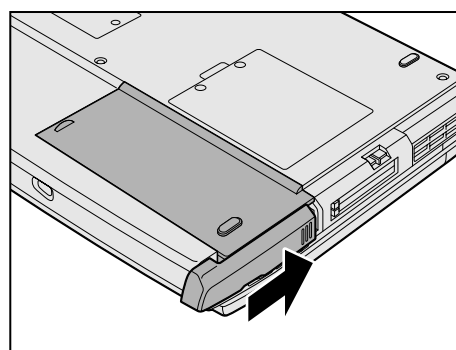
2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリラッチを横に押し①、バッテリカバーをスライドさせる②

5 バッテリパックごと、バッテリカバーを取り出す

6 バッテリカバーからバッテリパックを取り出す

バッテリカバーのツメを左右に広げ①、バッテリパックを取りはずします②。

注 意
- バッテリパックを保管する場合は、ショート防止のために電極に絶縁（ぜつえん）テープを貼るなどの対策をこうじてください。そのままの状態で保管すると、破裂や火災のおそれがあります。
- 本体側の電極に手で触れないでください。故障の原因になります。

7 交換するバッテリパックをバッテリカバーに取り付ける

新しい、あるいは充電したバッテリパックを注意して取り付けてください。

8 バッテリラッチが手前にずれていることを確認し、バッテリパックをコネクタの位置に合わせ①、静かに差し込む②

9 バッテリラッチをスライドさせ、バッテリパックを固定する

注 意 ・バッテリパックはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく取り付けられていないと、持ち運びのときにバッテリパックがはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。

6 時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、AC アダプタを接続しているときに行われます。普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

状態	時計用バッテリ
電源 ON（Power ⏻ LED が点灯）	約 10 時間以上
電源 OFF（Power ⏻ LED が消灯）	ほとんど充電しない

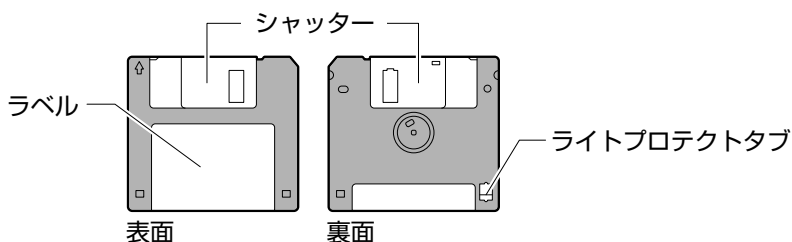
・時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

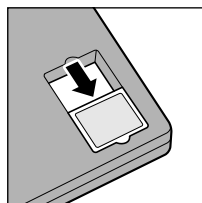
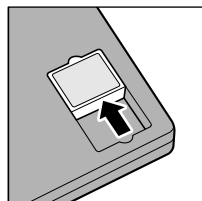
フロッピーディスクドライブ

1 フロッピーディスク

使用できるフロッピーディスクの種類と、保存できる容量は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量
2DDタイプ	720KB
2HDタイプ	1.2MB
2HDタイプ	1.44MB

1 枚あたりに保存できる容量は、フォーマットのときに指定します。
フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。

ライトプロテクトタブの状態で、次のようになります。

ライトプロテクトタブの状態

書き込み禁止状態
ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。
データの読み取りはできます。

書き込み可能状態
ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

☞ フロッピーディスクの取り扱いについて ➪「本章 10- フロッピーディスク」

❷ フロッピーディスクのフォーマット

新品のフロッピーディスクを使うときには、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。
新品のフロッピーディスクには、システムの種類別にフォーマットされているものと、フォーマットを行わずに販売されているものがあります。新品のフロッピーディスクを使用する場合は、「Windows フォーマット済み」かどうか確認してください。フォーマットされていないフロッピーディスクを使うときは、必ずフォーマットを行なってください。
他のシステム上でフォーマットされたフロッピーディスクも、Windows 上でフォーマットすることにより、Windows で使用することができます。
Windows でのフォーマット方法については、『Windows のヘルプ』をご覧ください。

お願い

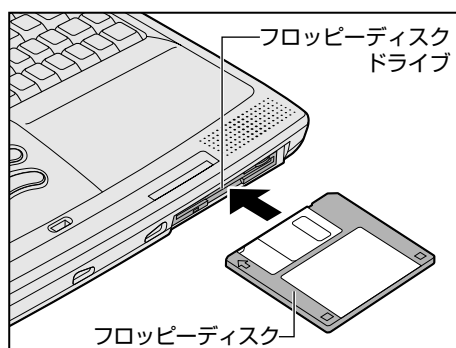
・フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

❸ フロッピーディスクのセットと取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入することを「フロッピーディスクをセットする」といいます。

フロッピーディスクのセット

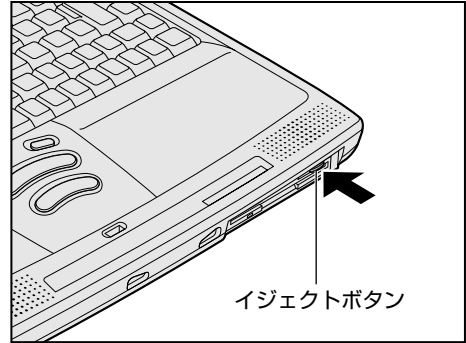
1 フロッピーディスクの隅にかかれている矢印の向きに合わせて挿入する

「カチッ」と音がするまで挿入します。正しくセットされるとイジェクトボタンが出てきます。

フロッピーディスクの取り出し

・FDD/CD-ROM 💾/💿 LEDが点灯している場合は、フロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れることがあります。

1 **イジェクトボタンを押す**

フロッピーディスクが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

6 ドライブ

本装置には、ご購入のモデルによって、CD-ROM ドライブ／DVD-ROM ドライブ／CD-R/RW ドライブ／マルチドライブが 1 台内蔵されています。

1 CD ／ DVD

使用できる CD

読み込みできる CD は、次の種類です。

①音楽用 CD

　8cm、12cm の音楽用 CD が聴けます。

②フォト CD

③ CD-ROM

　使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのものが使用できます。

④ CD エクストラ

⑤ CD-R

⑥ CD-RW

・CD-R、CD-RW は、メディアの特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。

また、CD-R/RW モデル、マルチドライブモデルで書き込みできる CD は、次の種類です。

① CD-RW

② CD-R

CD-RW メディアに書き込む際には、1 ／ 2 ／ 4 倍速対応（マルチスピード）CD-RW メディアをご使用ください。

ハイスピード対応のメディアへの書き込みには対応しておりません。

使用できる DVD

＊ DVD-ROM モデル、マルチドライブモデルの場合

読み込みできる DVD は、次の種類です。

① DVD-ROM

② DVD-Video

DVD-Video 再生のためのアプリケーションとして「InterVideo WinDVD」をご用意しています。ご使用の際は本製品に同梱の CD からインストールしてください。

・DVD-Video 再生時は、AC アダプタを接続した状態でご使用ください。
　また、使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちするケースがあります。

☞ CD ／ DVD の取り扱いについて ➩「本章 10- CD ／ DVD」

CD-R ／ CD-RW に書き込む

CD-R/RW モデル、マルチドライブモデルの場合、CD-R ／ CD-RW にデータを書き込むことができます。
書き込みを行うためのアプリケーションとして、Adaptec 社製「DirectCD」「Easy CD Creator」をご用意しています。ご使用の際は本製品に同梱の CD からインストールしてください。
CD-R ／ CD-RW に書き込みを行うときは、次のご注意をよくお読みのうえご使用ください。
守らずにご使用になると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ご使用のパソコンの設定によっては、書き込みに失敗することがあります。
本機に搭載している CD-R/RW ドライブには書き込みエラーを防ぐバッファーアンダーランエラー防止機能を内蔵していますが、電源切断やドライブへのショックなどの本体異常や、記録メディアの状態などによっては、処理が正常に行えずエラーとなる場合があります。
書き込みに失敗した CD-R の損害については、当社は一切その責任を負いません。
また、記憶内容の変化・消失など、CD-R ／ CD-RW に保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

書き込む前に

- CD-R メディアに書き込む際には、8 倍速対応の CD-R メディアをご使用ください。
- CD-RW メディアに書き込む際には、1 ／ 2 ／ 4 倍速対応（マルチスピード）CD-RW メディアをご使用ください。
- 次のメーカの CD-R ／ CD-RW をご使用になることをおすすめします。
  CD-R　：太陽誘電（株）、TDK（株）、三井化学（株）、三菱化学（株）、リコー（株）、日立マクセル（株）
  CD-RW　：三菱化学（株）、リコー（株）
  上記以外のメーカの CD-R ／ CD-RW をご使用になると、うまく書き込みができない場合があります。
- 必ず AC アダプタを接続して電源コンセントに接続してください。
  バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などにより書き込みに失敗するおそれがあります。
- スクリーンセーバなど CPU に負担のかかるソフトウェアは動作しないように設定してください。
- ウィルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。
- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことをおすすめします。
- LAN を経由しての書き込みは行わないでください。LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行なってください。
- 「DirectCD」「Easy CD Creator」以外の CD-R ／ CD-RW 書き込み用ソフトウェアは動作保証しておりません。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。
  ☞ 省電力機能について ➪「4 章 2 東芝省電力ユーティリティ」

● 書き込み用ソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。

・CD-Rに書き込みできるのは1回限りです。書き込みに失敗したCD-Rは再利用できませんが、CD-RWはフォーマットすると再利用できます。

書き込み／削除を行うときは

● アキュポイントⅡを動かす、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
● モデムなど、通信アプリケーションを起動しないでください。
● パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
● 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PCカード、USB対応機器、CRTディスプレイ、PRTコネクタに接続する機器
● 重要なデータについては、必ずデータ書き込み終了後に、データが正しく書き込まれたことを確認してください。

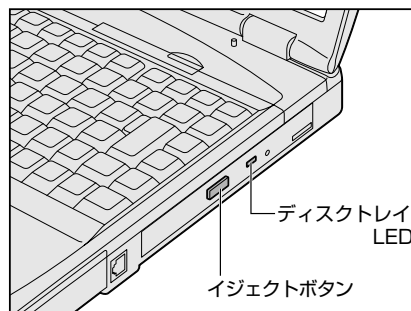
「Easy CD Creator」の設定

● 「Easy CD Creator」を使用して重要なデータを書き込む場合は、メニューバーから［ファイル］-［CDレイアウトプロパティ］をクリックし、［書き込み後CD上のファイルを検証する］をチェックしてください。
正常に書き込まれていることを確認できます。
● 書き込み終了後、CD-R/RWドライブのディスクトレイが開き「CDレコーダにターゲットCDを投入してください」とメッセージが表示される場合があります。その場合は、そのままディスクトレイを閉めて［OK］ボタンをクリックしてください。
検証を開始します。

❷ CD ／ DVD のセットと取り出し

＊イジェクトボタンやディスクトレイ LED の位置は、ご購入のモデルによって異なります。

注 意
- **FDD/CD-ROM ／ LED およびディスクトレイ LED が点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD ／ DVD を取り出す操作をしないでください。CD ／ DVD が傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。**
- **ドライブのトレイを開けたときに、CD ／ DVD が回転している場合には、停止するまで CD ／ DVD に手を触れないでください。ケガのおそれがあります。**
- **ドライブは開けたままにしないでください。ケガのおそれやドライブの故障の原因となります。**

・パソコン本体を携帯するときは、ドライブに CD ／ DVD が入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。

・CD ／ DVD は、電源が入り、FDD/CD-ROM ／ LED が消灯しているときにセット／取り出しができます。
・次の場合は、ディスクトレイはイジェクトボタンを押しても出てこない、またはすぐには出てきません。
  ・電源を入れた直後
  ・リセットした直後
  ・ディスクトレイを閉じた直後
  これらの場合には、ディスクトレイ LED の点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。
・Windows が起動したとき、FDD/CD-ROM ／ LED が周期的に薄く点灯します。
  これは CD ／ DVD の自動挿入を検出しているためで、故障ではありません。

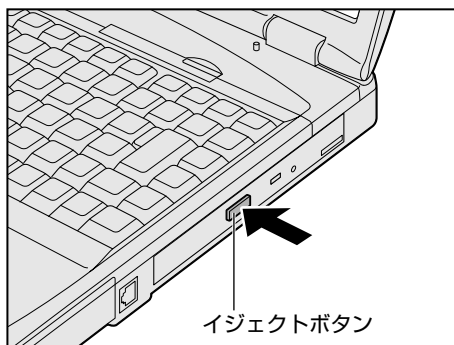
CD／DVDのセット

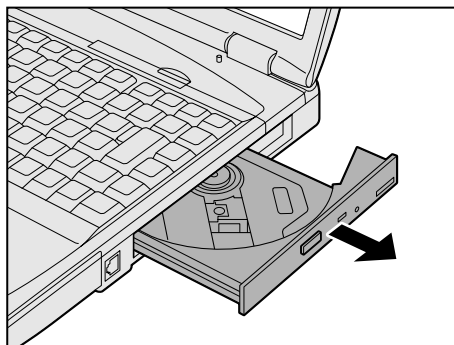
CD／DVDをセットするには、次のように行います。

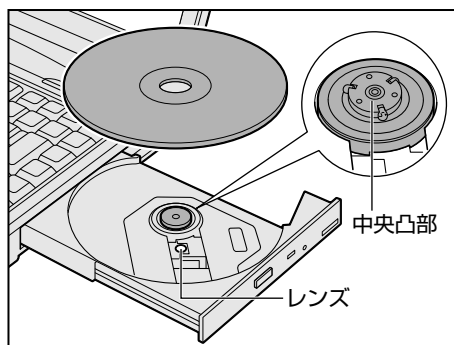
1 パソコン本体の電源を入れる

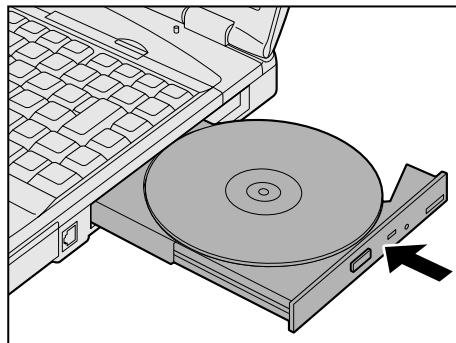
・電源が入っていないと、イジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。

2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

3 ディスクトレイを引き出す

CD／DVDをのせる面がすべて出るまで、引き出します。

4 文字が書いてある面を上にして、CD／DVDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部分に合わせ、上から押さえてセットする

カチッと音がして、セットされていることを確認してください。

注 意
・ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
・CD／DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
・CD／DVDを正しくディスクトレイにセットしないと、CD／DVDを傷つけることがあります。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

CD／DVDの取り出し

注 意 ・FDD/CD-ROM ／ LEDが点灯しているときは、CD／DVDを取り出さないでください。CD／DVDのデータやドライブがこわれるおそれがあります。

・パソコン携帯時は、ドライブに入っているCD／DVDは取り出してください。

1 パソコン本体の電源を入れる

2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

3 ディスクトレイを引き出す

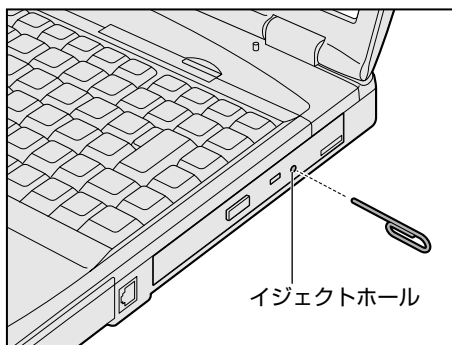
CD／DVDをのせる面がすべて出るまで、引き出します。

4 CD／DVDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す

ディスクトレイからCD／DVDを取り出します。

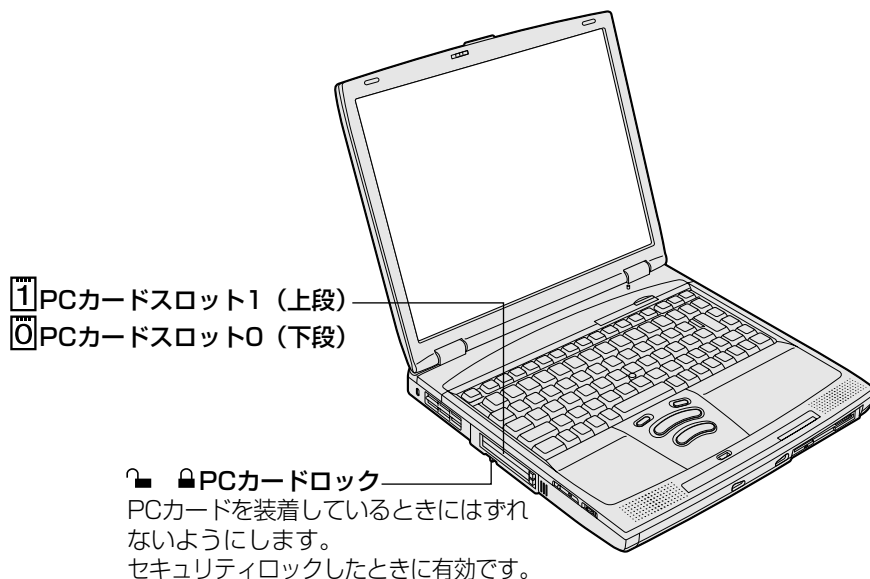
CD／DVDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

・電源を切っているときにイジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。故障などで電源が入らない場合は、ドライブのイジェクトホールを、先の細い、丈夫なもの（例えば、クリップを伸ばしたもの）で押してください。ディスクトレイが出てきます。

注 意 ・電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD／DVDのデータやドライブがこわれるおそれがあります。

3 章 本体の機能

7 PC カード

本製品には、PC カード（別売り）を取り付けることができます。

注 意　・ホットインサーションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。

- 市販されている PC カードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させていると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。また、他のカードといっしょに使用すると、熱の影響により、他のカードの動作も不安定になる場合があります。
- **ホットインサーション**
  パソコン本体の電源を入れたままで、PC カードの取り付け／取りはずしをすることをいいます。ただし、PC カードによってはこの機能に対応していないものがあります。
- PC カード接続のハードディスクドライブや CD-ROM ドライブなどの動作中に、通信またはサウンド再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
  - 通信回線の速度が遅くなる、通信回線が切断される、ダイヤルに失敗する
  - サウンド再生時に音飛びが発生する

使用できる PC カードのタイプは、取り付けるスロットによって異なります。

使用スロット	使用可能タイプ
1（上側）	TYPE Ⅱ
0（下側）	TYPE Ⅱ/Ⅲ

PC カードの例を次にあげます。

●モデムカード

●スマートメディアアダプタカード

● SCSI アダプタ

●フラッシュメモリカード

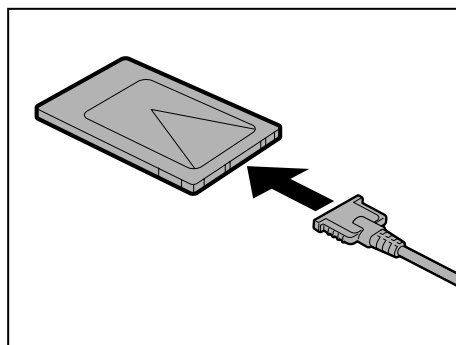
● CardBus 対応カード　など

・スロット 0 にタイプⅢの PC カードを取り付けた場合は、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

☞『PC カードに付属の説明書』

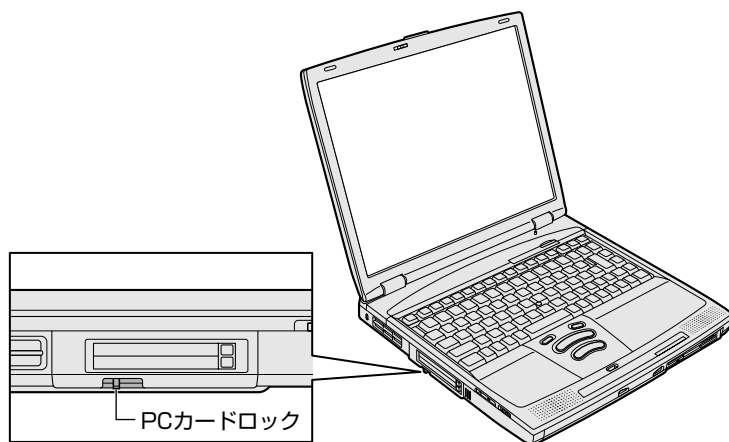
取り付け

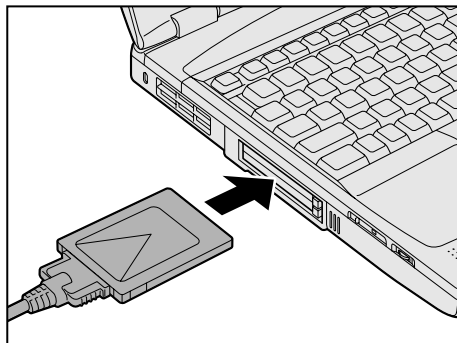
1 PC カードにケーブルを付ける

モデムカードなど、ケーブルを接続することが必要なカードの場合は、この作業を行なってください。

・ケーブルを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

2 PC カードロックを解除する

図のように PC カードロックが左側（🔓）にあることを確認してください。右側（🔒）にある場合は、左にスライドしてロックを解除してください。

3 章 本体の機能

3 上下や方向を確認し、PCカードを挿入する

カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードは使用できません。

4 PCカードロックを右側（🔒）にする

カードを接続した後、カードを使用できるように設定されているかどうかを確認してください。

☞ カードの接続および環境の設定方法 ⇨『PCカードに付属の説明書』

取りはずし

注 意 ・PCカードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

お願い

・PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから取りはずしを行なってください。

1 PCカードの使用を停止する

98

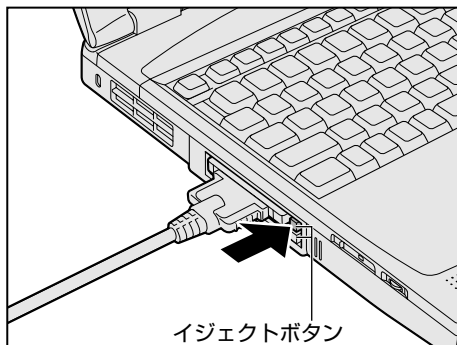
① タスクバーにある［PCカード］アイコン（ ）をダブルクリックする
② 表示される画面で、停止するPCカードを選択し、［停止］ボタンをクリックする
③「安全に取りはずせます」が表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

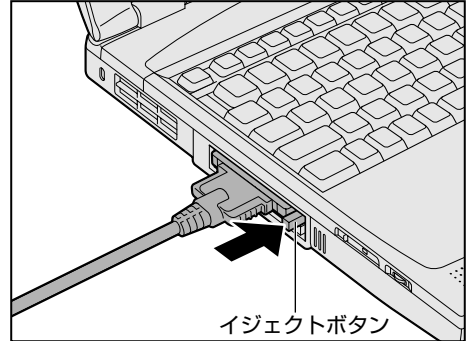
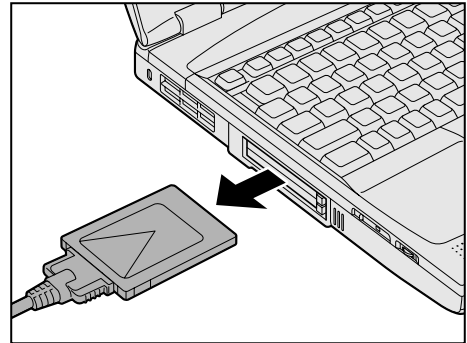
2000

① タスクバーにある［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］アイコン（ ）をダブルクリックする
② 表示される画面で、停止するPCカードを選択し、［停止］ボタンをクリックする
③ 表示される画面で、停止するPCカードを確認し、［OK］ボタンをクリックする
④「安全に取り外すことができます」が表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

2 PCカードロックを解除（左側）にする

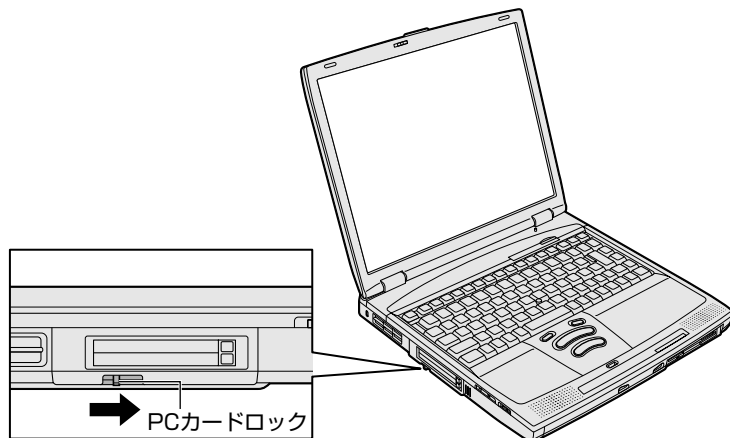
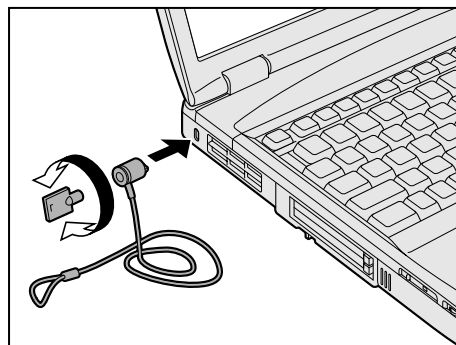
3 取りはずしたいカードのイジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが出てきます。

4 もう1度イジェクトボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

5 カードをしっかりとつかみ、引き抜く

注 意　・PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。

PC カードをセキュリティロックする

PC カードロックとセキュリティロックを使用することで PC カードが取りはずせないようにすることができます。PC カードを取り付け後、この操作を行なってください。またこの操作は必要なときのみ行なってください。

1 PC カードロックを右側（🔒）にする

2 セキュリティロックをする

・セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

8 増設メモリ

本製品には２つの増設メモリスロット（スロットＡとスロットＢ）があり、スロットＡにはすでに64MB、128MBのいずれかのメモリが取り付けられています。
別売りのメモリをスロットＢに取り付けたり、スロットＡのメモリを付け替えることにより最大512MBまで拡張することができます。

警 告
・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。

注 意
・増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
・電源を切った直後には、増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。増設メモリスロット周辺が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。増設メモリの取り付け／取りはずしは、電源を切った後30分以上たってから、行うことをおすすめします。
・増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。

お願い

・増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行なってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。
・スタンバイ機能、休止状態を設定したまま、増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。
スタンバイ機能、または休止状態は無効になります。
また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。
・増設メモリは本製品で動作が保証されているものをご使用ください。
それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。

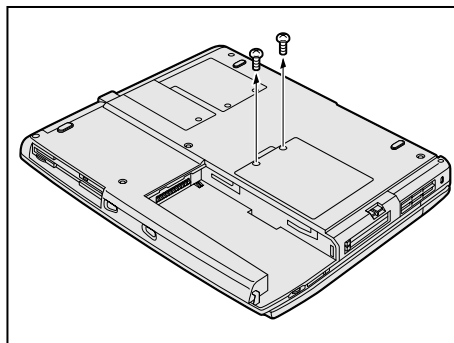
取り付け

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

3 パソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

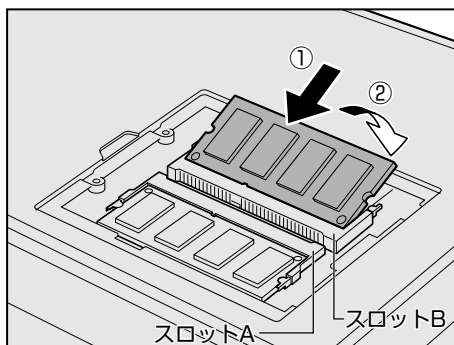
☞ バッテリパックの取りはずしかた ⇨「本章 4-5 バッテリパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ２本をはずし、カバーをはずす

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

警告 ・ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。

注意 ・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

6 増設メモリカバーをつけて、手順４ではずしたネジ２本をとめる

7 バッテリパックを取り付ける

☞ バッテリパックの取り付けかた ➪「本章 4-5 バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れたとき、合計のメモリ量が自動的に認識されます。合計のメモリ量が正しいかどうかを次の方法で確認してください。

98 ：PC 診断ツール

① ［スタート］-［プログラム］-［東芝ユーティリティ］-［PC 診断ツール］をクリックする
② ［基本情報の表示］ボタンをクリックする
③ ［メモリ］の数値を確認する

2000 ：システムのプロパティ

① ［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする
② ［システム］をダブルクリックする
③ ［全般］タブの RAM の数値を確認する

取りはずし

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

注 意 ・増設メモリの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行なってください。

2 パソコン本体に接続されているＡＣアダプタとケーブル類をはずす

3 パソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

☞ バッテリパックの取りはずしかた ➩「本章 4-5 バッテリパックを交換する」

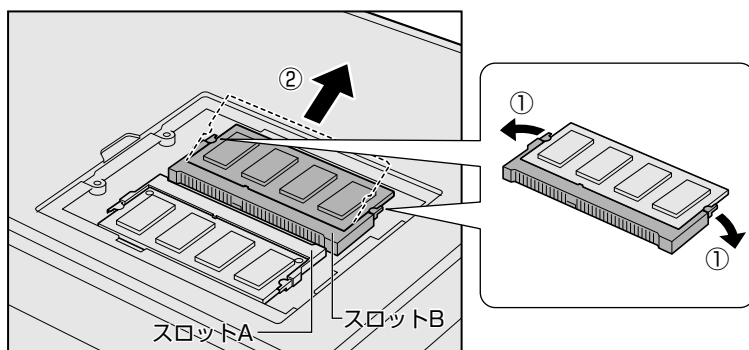
4 増設メモリカバーのネジ２本をはずし、カバーをはずす

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

警 告 ・ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。

注 意 ・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②

増設メモリを斜めに持ち上げて引き抜きます。

6 増設メモリカバーをつけて、手順４ではずしたネジ２本をとめる

7 バッテリパックを取り付ける

☞ バッテリパックの取り付けかた ➩「本章 4-5 バッテリパックを交換する」

周辺機器の接続

本章で説明していない周辺機器については、それぞれの周辺機器に付属の説明書を参考にしてください。
取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。各節を読んでから作業をしてください。

注 意　・パソコンが動作中に着脱することが認められていない周辺機器を接続する場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。

・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
・湿度やホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
・静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
・本製品を改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

パソコン本体へのケーブルの接続

次の点に注意して、接続してください。

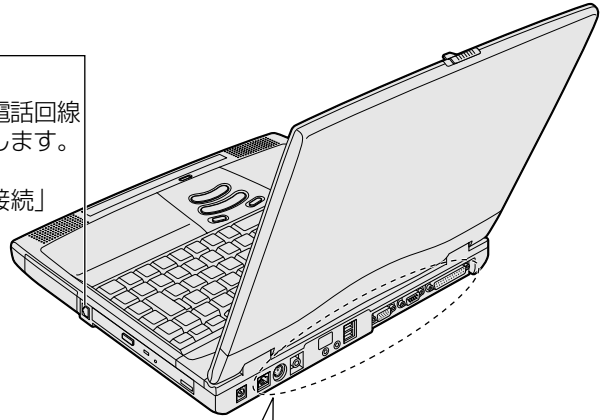
- **パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときには、コネクタの上下や方向を合わせる**
- **ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締める**

・ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

周辺機器を使用するときは、この他に作業が必要なことがあります。また、その必要な作業は、使用するシステムで異なることがあります。それぞれの周辺機器に付属の説明書をご覧ください。

各インタフェースの名称

背面と右側面

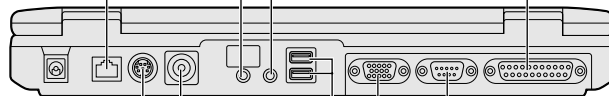
モジュラージャック
＊モデム内蔵モデルのみ
モジュラーケーブルで本体を電話回線に接続し、モデム機能を使用します。
☞ 電話回線の接続
➪「本節 - 電話回線への接続」

マイク入力端子
マイクロホンを接続します。マイクロホンのプラグはモノラルミニジャックタイプ(3.5φ)を使用してください。

ヘッドホン出力端子
ヘッドホンを接続します。音源はステレオで出力されます。ヘッドホンはステレオミニジャックタイプ(3.5φ)を使用してください。

・次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
 ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
 ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

{Ether} LANコネクタ
ネットワークケーブルを接続します。ネットワークに接続するには、ネットワークの設定が必要です。ネットワーク管理者の指示に従って、設定を行なってください。

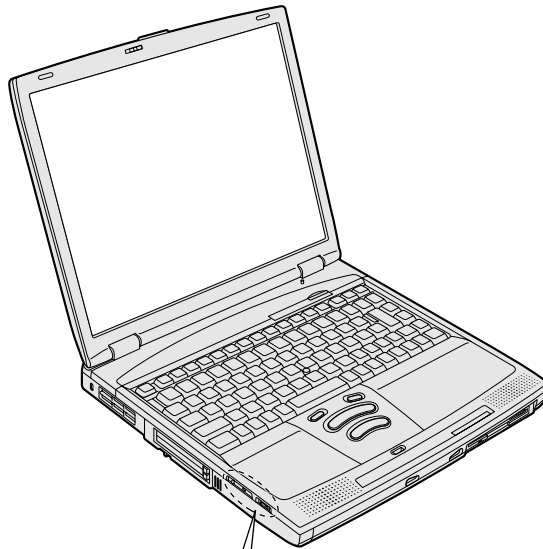
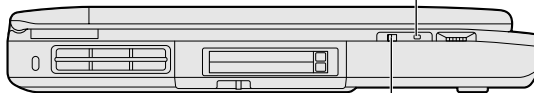
PRTコネクタ
プリンタを接続して使用します。

PS/2コネクタ
PS/2対応のキーボードやマウスを取り付けられます。
接続するときは、パソコン本体の電源を必ず切ってください。

COMMSコネクタ
RS-232C規格の機器を取り付けられます。マウスなどにRS-232C規格のものがあります。

ビデオ出力端子
映像データの出力端子です。
NTSC/PAL規格対応のテレビなどを接続します。
☞ 表示の切り替え
➪「本節 - CRTディスプレイやテレビを接続した場合」

RGBコネクタ
CRTディスプレイを接続して使用できます。
☞ 表示の切り替え
➪「本節 - CRTディスプレイやテレビを接続した場合」

USBコネクタ
USB（Universal Serial Bus）規格の機器が取り付けられます。

左側面

無線LAN LED
＊無線LANモデルのみ
無線LANの使用状況を表します。
オレンジ点灯：無線LANが使用できます。
消灯　　　　：無線LANは使用できません。

無線LANスイッチ
＊無線LANモデルのみ
無線LANの使用を切り替えます。
使用するときは左側に、使用しないときは右側に切り替えてください。

無線LANを使用するには、設定が必要です。
詳しくは、「アプリケーション＆ドライバCD-ROM」（98）、「Application CD-ROM」（2000）の『無線LANについて』をご覧ください。

CRT ディスプレイやテレビを接続した場合

CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。
テレビを接続した場合、表示装置を切り替えないと、テレビには表示されません。
次の方法でテレビや CRT ディスプレイの表示装置を切り替えることができます。

・次のようなときには、表示方法を切り替えないでください。データが消失するおそれがあります。
  ・データの読み込みや書き込みをしている間
    エラーになります。データのやり取りが完了するまで待ってください。
  ・通信を行なっている間
    エラーになります。通信が完了するまで待ってください。

・CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
・MS-DOS モードを選択している場合、パソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示はできません。

方法 1 ー画面のプロパティで設定する

1 ［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

2 ［画面］をダブルクリックする

3 ［設定］タブで［詳細］ボタンをクリックする

4 ［表示デバイス］タブの［表示デバイス］で次のいずれかを選択する

● LCD .... パソコン本体のディスプレイだけに表示
● LCD／CRT .... パソコン本体のディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示
● CRT .... CRT ディスプレイだけに表示
● LCD／TV .... パソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示
［ディファレントリフレッシュレート］をチェックしてから［LCD／TV］を選択してください。
● TV .... テレビだけに表示

方法２－Fn＋F5キーを使う

Fnキーを押したまま、F5キーを押すたびに次の順序で切り替わります。

LCD（パソコン本体のディスプレイだけに表示）

↓

LCD／CRT（パソコン本体のディスプレイとCRTディスプレイの同時表示）

↓

CRT（CRTディスプレイだけに表示）

CRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。

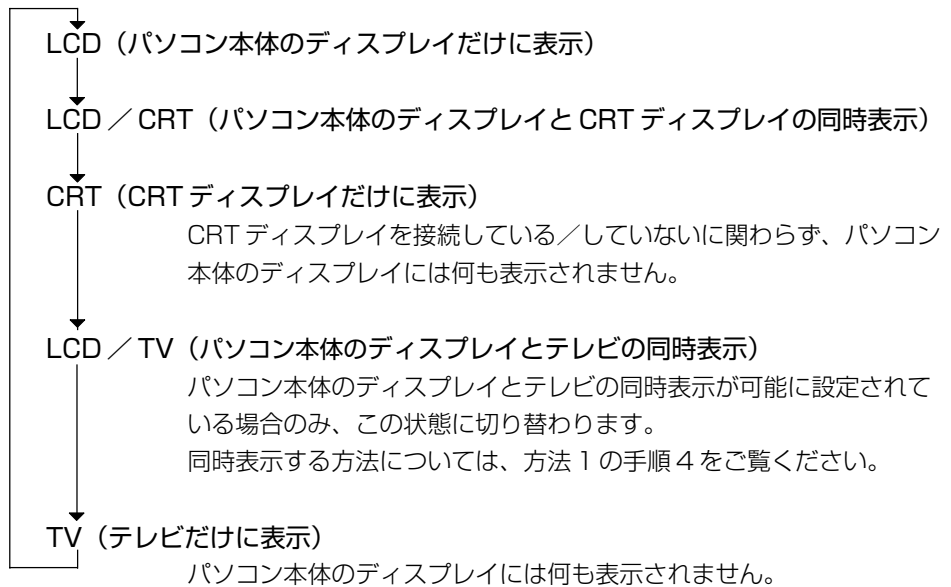
↓

LCD／TV（パソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示）

パソコン本体のディスプレイとテレビの同時表示が可能に設定されている場合のみ、この状態に切り替わります。
同時表示する方法については、方法１の手順４をご覧ください。

↓

TV（テレビだけに表示）

パソコン本体のディスプレイには何も表示されません。

CRTディスプレイを接続した場合は、次の方法でも設定することができます。

方法３－ユーティリティで設定する

1 ［スタート］－［設定］－［コントロールパネル］をクリックする

2 ［東芝HWセットアップ］をダブルクリックする

3 ［ディスプレイ］タブで［起動時の表示装置］を設定する

●内部/外部を自動選択 .. CRTディスプレイだけに表示（CRTディスプレイ接続時）
●内部/外部を同時使用 .. パソコン本体のディスプレイとCRTディスプレイの同時表示

方法４－［セットアッププログラム］で設定する

1 「セットアッププログラム」を起動する

☞ 起動方法 ➪「5章3-1 セットアッププログラムを起動する方法」

2 ［DISPLAY］で［Power On Display］を設定する

☞「5章3-4 設定項目」

電話回線への接続

＊モデム内蔵モデルのみ
内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを使って2線式の電話回線に接続します。
本装置の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

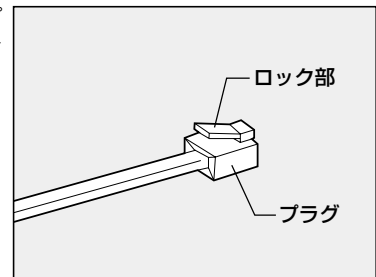
アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マレーシア、マルタ、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、ルーマニア、レバノン、ロシア （2001年5月現在）

また、公衆回線網の通信規格は各地域により異なりますので、ご使用になる地域に合わせて設定が必要です。ご購入時は「日本」に設定されています。
☞「本項 - 地域設定を変更する」

内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。
通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6kbpsで接続されます。

モジュラーケーブルの取り付け

お願い

・モジュラーケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行なってください。また、はずすときは、ロック部を押しながらはずしてください。
ケーブルを引っ張らないでください。

1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む

ロック部を手前に向けて差し込んでください。

2 もう一方のモジュラープラグを電話機用モジュラージャックに差し込む

ISDN回線に接続する場合は、ご使用のターミナルアダプタ（TA）またはダイヤルアップルータのアナログポートなどに接続してください。

注 意
- **内蔵モデムは使用できる地域が限定されます。指定以外の地域で内蔵モデムを使用すると故障のおそれがあります。使用できる地域をよくご確認のうえ、ご使用ください。**
- **内蔵モデムは一般電話回線（アナログ回線）に接続して使用してください。デジタル回線（ISDN回線など）には接続できません。デジタル回線対応の公衆電話のデジタル側やデジタル式交換機（PBX）へ接続すると、故障のおそれがあります。ホームテレホンやビジネスホン用の電話回線には絶対に接続しないでください。**

・モジュラープラグをモジュラージャックに接続するときは、「カチッ」と音がするまで確実に押し込んでください。
・市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
・回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
・モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。

・PC カード接続のハードディスクドライブや CD-ROM ドライブなどの動作中に、通信またはサウンド再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
　・通信回線の速度が遅くなる、通信回線が切断される、ダイヤルに失敗する
　・サウンド再生時に音飛びが発生する

モジュラーケーブルの取りはずし

1 パソコン本体と電話機用モジュラージャックに差し込んであるモジュラープラグを抜く

地域設定を変更する

内蔵されているモデムを、海外で使用する場合は、公衆回線網の通信規格が各地域により異なりますので、ご使用になる地域にあわせて「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で内蔵モデムの地域設定を行なってください。ご購入時は、「日本」に設定されています。
本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードでご使用ください。
他地域のモードでご使用になると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

1 [スタート] - [プログラム] - [Toshiba Internal Modem] - [Region Select Utility] をクリックする

内蔵モデム用地域選択ユーティリティが起動し、タスクバーに［地域選択ユーティリティ］アイコン（ ）が表示されます。

2 タスクバーの［地域選択ユーティリティ］アイコン（ ）をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示され、地域名のサブメニューとしてテレフォニー（ 98 ）、または［電話とモデムのオプション］（ 2000 ）の所在地情報名が表示されます。
現在設定されている地域設定と、所在地情報名にチェックマークがつきます。

3 使用する地域名、または所在地情報名を選択し、クリックする

地域名を選択した場合、モデムの地域設定を行なった後、新しく所在地情報が作成されます。この場合、現在の所在地情報は新しく作成されたものになります。
所在地情報名を選択した場合、その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

その他の設定

「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で、その他の設定の確認や変更をする場合は、次の手順で行なってください。

1 **タスクバーの［地域選択ユーティリティ］アイコン（ ）を右クリックする**

メニューが表示されます。確認や変更する項目を選択してください。

設定

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

●自動起動モード
　システム起動時に自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。

●地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する
　地域選択後、テレフォニーの［ダイヤルのプロパティ］（ 98 ）、または［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］（ 2000 ）が表示されます。

●場所設定による地域選択
　テレフォニー（ 98 ）、または［電話とモデムのオプション］（ 2000 ）の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。

●モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示
　モデムの地域設定と、テレフォニー（ 98 ）、または［電話とモデムのオプション］（ 2000 ）の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、注意の画面を表示します。

モデム選択

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

ダイアルのプロパティ

テレフォニーの［ダイヤルのプロパティ］（ 98 ）、または［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］（ 2000 ）が表示されます。

3章 本体の機能

内蔵モデム

内蔵モデムを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめ内蔵モデムが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。
あらかじめ内蔵モデムが取り付けられているモデルの場合は、モデムを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

警 告
・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。

注 意
・内蔵モデムの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
・電源を切った直後には、内蔵モデムの取り付け／取りはずしを行わないでください。内部が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。内蔵モデムの取り付け／取りはずしは、電源を切った後 30 分以上たってから、行うことをおすすめします。
・内蔵モデムを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。

取り付け

1. データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
2. パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
3. パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす
4. 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ１本をはずし、カバーを取りはずす
5. モデムボードのネジ２本を取りはずす
6. モデムボードをパソコン本体に取り付ける
7. 手順５ではずしたモデムボードのネジ２本をとめる
8. 手順４ではずしたカバーをはめ、ネジ１本でとめる
9. バッテリパックを取り付ける

取りはずし

1. データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
2. パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
3. パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす
4. 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ１本をはずし、カバーを取りはずす
5. モデムボードのネジ２本を取りはずす
6. モデムボードをパソコン本体から取りはずす
7. 手順５ではずしたモデムボードのネジ２本をとめる
8. 手順４ではずしたカバーをはめ、ネジ１本でとめる
9. バッテリパックを取り付ける

日常の取り扱いとお手入れ

日常の取り扱いでは、次のことを守ってください。

パソコン本体

警 告 ・水などの液体がかかったり、直射日光の当たる場所に置かないでください。
ショート、発煙のおそれがあります。

注 意 ・お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
・機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。
製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。
・水や中性洗剤は、絶対に本製品に直接かけないでください。本製品が傷んだり故障するおそれがあります。

● 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を堅くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
● 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
● ディスプレイは静かに閉じてください。
● 使用できる環境は次のとおりです。
温度5～35℃、湿度20～80%
● 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所
非常に高温または低温になる場所
急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）
強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）
ホコリの多い場所
振動の激しい場所
薬品の充満している場所
薬品に触れる場所
● 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。
本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。

電源コード

電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取ってください。

キーボード

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を堅くしぼって拭きます。
キーのすきまにゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご連絡ください。
コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、電源を入れる前にお買い求めの販売店、または保守サービスに連絡し、交換を依頼してください（有償）。

液晶ディスプレイ

画面のお手入れ

- 画面の表面には偏向フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
  表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
  液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

サイドライト用FL管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにサイドライト用FL管（冷陰極管）が内蔵されています。サイドライト用FL管（冷陰極管）は、ご使用になるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスにご相談ください。有償にて交換いたします。

表示不良画素について

カラー液晶ディスプレイは、非常に高精度な技術を駆使して作られていますが、一部に表示不良画素（欠け、常時点灯など）が存在することがあります。これらの表示不良画素は、少量に抑えるよう管理していますが、現在の最先端の技術でも表示不良画素をなくすことは困難ですので、ご了承ください。

アキュポイントII（ポインティング装置）

マウスポインタを動かすポインティング装置をアキュポイントIIといいます。
アキュポイントIIは、ハンドクリームや油などのついた手で操作したり、油性の液体をつけたりしないでください。操作時にすべりやすくなったり、アキュポイントキャップが劣化する（溶ける）おそれがあります。アキュポイントキャップがすりきれたら取り換えてください。
携帯電話、無線機など電波を発生する機器が近くにあるときにマウスポインタが移動する場合があります。その場合は、電波を発生する機器を離してください。

フロッピーディスク

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。
フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

●フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
●シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。
汚れると使用できなくなります。
●スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
●直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
●本やノートなど重いものを上に置かないでください。
●使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環　境	使用時	保管時
温　度	5～35℃	4～53℃

●ラベルは正しい位置に貼ってください。
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
●ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
●保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
●食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。
● 3.5型フロッピーディスクは当社の次の製品をお使いください。
他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかったり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

製品番号	形式
M4293	2HD形式
M4216	2DD形式

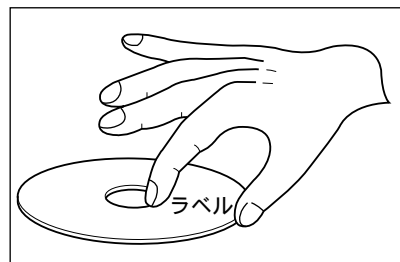
フロッピーディスクドライブ

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にフロッピーディスクドライブをクリーニングしてください。

CD／DVD

CD／DVDの内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってお取り扱いください。

● CD／DVDを折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD／DVDを読み込むことができなくなります。

● CD ／ DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD ／ DVD の上に重いものを置かないでください。
● CD ／ DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
● CD ／ DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。

● CD ／ DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
● CD ／ DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。
円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。
● CD ／ DVD のかたよった位置にシールなどを貼らないでください。CD ／ DVD が正常に回転しなくなり、CD ／ DVD の損傷などの原因になります。

データのバックアップについて

重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。
バックアップとはハードディスクやアプリケーションの故障などでファイルが使用できなくなったときのために、あらかじめファイルをフロッピーディスクや CD-R、CD-RW などにコピーしておくことです。
本製品は次のような場合、スタンバイ機能または休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

● 誤った使いかたをしたとき
● 静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
● 長時間使っていなかったために、バッテリ（バッテリパック、時計用バッテリ）の充電量がなくなったとき
● 故障、修理、バッテリ交換のとき
● バッテリ駆動で使用しているときにバッテリパックを取りはずしたとき
● 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失など、ハードディスクやフロッピーディスク、CD-R、CD-RW などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

持ち運ぶとき

持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを守ってください。

- 電源は必ず切ってください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。

  電源を切った後も、Disk LEDが点灯中は動かさないでください。
- かばんなどにパソコンを収納するときは、必ず電源が切れていることをご確認ください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。
  やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。
  また、フロッピーディスクやCD／DVDがセットされている場合は、取り出してください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。また、日の当たる自動車内に置かないでください。
  故障の原因になります。
- 持ち運ぶときはディスプレイを閉じてください。

消耗品について

次の部品は消耗品です。

- バッテリパック（充電式リチウムイオン電池）
  長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。
  充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリパックと交換してください。
- 時計用バッテリ（交換は有償です）
- アキュポイントキャップ
  消耗した場合は、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。

4

消費電力を節約する

本章では、パソコンをバッテリ駆動で使用するときに便利な
省電力機能について説明しています。

バッテリを節約する

バッテリを充電して、または充電したバッテリパックを交換して、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。
バッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- ●バッテリの充電を完了（フル充電）する
- ●バッテリ駆動で使用した後は、バッテリを充電しておく
- ●スタンバイ状態、休止状態を活用し、こまめに電源を切る
  スタンバイ状態や休止状態とは、電源を切った後、次に電源を入れると、直前の状態を再現することができる機能です。
  ☞ スタンバイ状態、休止状態について
  ➪「本章 2 東芝省電力ユーティリティ」
- ●パネルスイッチ機能を活用し、入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
  ☞ パネルスイッチ機能 ➪「2章 4 簡単に電源を切る／作業を中断する」
- ●省電力に設定する
  ☞ 省電力設定 ➪「本章 2 東芝省電力ユーティリティ」

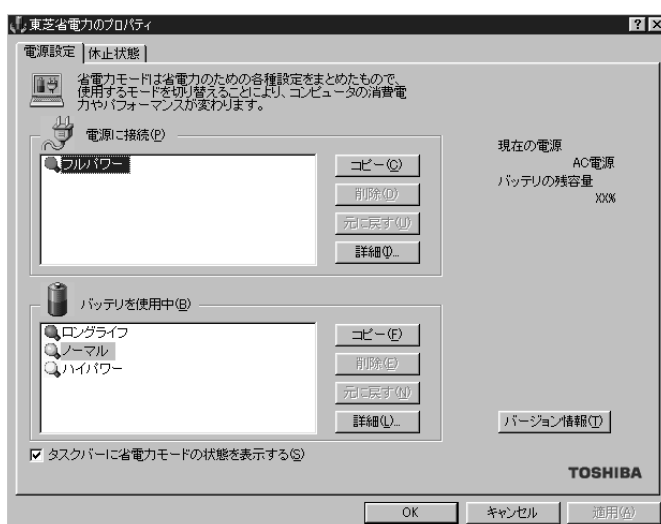
東芝省電力ユーティリティ

本製品には、パソコン本体を省電力で使うための機能が用意されています。これらの機能を使うと、使用目的や環境に合わせて簡単に省電力設定が行えます。
省電力設定を行うことによって、パソコン本体のバッテリ消費電力を抑え、より長い時間お使いいただけます。

起動方法

1 ［スタート］-［設定］-［コントロールパネル］をクリックする

2 ［東芝省電力］をダブルクリックする

「東芝省電力ユーティリティ」が起動します。
タスクバーの［省電力］アイコン（ ）をダブルクリックしても起動できます。

（表示例）

[電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。
また、現在の電源やバッテリ残量などの詳細情報も表示します。

［電源に接続］［バッテリを使用中］には、設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用になりたい省電力モードに設定します。［電源に接続］［バッテリを使用中］は AC アダプタに接続している／していないによって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。
これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。
また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本節 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、［電源に接続］（AC アダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。

ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、［バッテリを使用中］（バッテリを使用するとき）がこのモードに設定されています。

ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

省電力モードの作成

1 **新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする**

2 **［コピー］ボタンをクリックする**

［〜のコピー］という省電力モードができます。

3 **その省電力モードの名前を変更する**

4 **必要に応じて省電力の設定を変更する**

省電力モードの削除

1 削除する省電力モードをクリックする

2 [削除] ボタンをクリックする

[元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[OK] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。

・ご購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

タスクバーに省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると現在の省電力モードを示す [省電力] アイコン（ ）がタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。
[省電力] アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、「東芝省電力ユーティリティ」を開くことができます。

[休止状態] タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。
使用する場合には、[休止状態をサポートする] をチェックします。

省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

起動方法

1 [電源設定] タブで利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。

（表示例）

［全般］タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

［省電力］タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。

CPU 熱制御

CPU が高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

CPU の処理速度

バッテリ残量に応じた処理速度を設定します。
バッテリ駆動時間を延ばすには、［低速］で使用する方が効果的ですが、処理速度も遅くなります。

- ［CPU の処理速度］を［低速］に設定していても、パソコン使用中の CPU の過熱がおさまらないときは、危険防止のため自動的に電源が切れます（危険防止機能）。この場合は、涼しい場所でしばらくパソコンを放置してからご使用ください。それでも電源が切れる場合は、お近くの保守サービスにご連絡ください。
- 危険防止機能が働いて電源が切れたときは、保存していないデータは失われる場合があります。定期的にデータのバックアップを取るようにしてください。

モニタの輝度

画面の輝度（バックライトの明るさ）を変える設定です。画面の輝度を下げる（バックライトを暗くする）ことで、バッテリの消費を抑えられます。

モニタの電源を切る

キーボード、およびアキュポイントⅡ、マウスをある一定時間使用していないとき、画面表示を自動的にオフにする設定です。画面のバックライトを消灯するので、画面に使用する電力をほぼゼロにすることができ、もっとも省電力の効果があります。

ハードディスクの電源を切る

ハードディスクを一定時間使用していないときに、ハードディスクドライブのモータを停止して、バッテリの消費を抑えられます。

システムスタンバイ、システム休止状態

［システム休止状態］は Windows 2000 モデルのみ設定できます。
パソコンを一定時間使用していないときに、自動的にスタンバイ機能を実行、または休止状態にして、システムの動作をオフにすることができます。
システムオフまでの時間を、［システムスタンバイ］、［システム休止状態］のスライダーバーで設定してください。ただし、［システムスタンバイ］は［システム休止状態］より長い時間には設定できません。

・システムオフ時間は、最後にハードウェアにアクセスしてからの時間です。［ハードディスクの電源を切る］で時間を設定した場合は、ハードディスクドライブが停止した後、指定した時間がたつとシステムがオフになります。
・Windows 2000 モデルで［システムスタンバイ］と［システム休止状態］を同時に設定している場合、設定した時間後にスタンバイ状態になってから、休止状態になります。
　例）［システムスタンバイ］を５分後、［システム休止状態］を 10 分後に設定したとき
　　５分後にスタンバイ状態になり、さらに５分後に休止状態になります。

［動作］タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

・ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、［現在の設定をすべてのモードで使用する］ボタンをクリックします。

スタンバイ機能

スタンバイ機能とは、電源がオンの状態で表示画面をオフにし、CPU および他のデバイスが休止している状態です。次に電源スイッチを押すと、以前の状態がすばやく再現されます。
休止状態に比べて、状態の再現がすばやく行われます。
しかし、休止状態実行時よりもバッテリを消耗しますので、AC アダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

警 告 **・パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイ機能を使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。**

注 意 **・スタンバイ中は、増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ中は電源が入っていますので、増設メモリの取り付け／取りはずしを行うと、感電、故障のおそれがあります。**

・次のような場合はスタンバイ機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
　・誤った使いかたをしたとき
　・静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
　・バッテリが消耗したとき
　・故障、修理、電池交換のとき
　・電源を切った後、すぐに電源を入れたとき
　・バッテリ駆動で使用しているときにバッテリパックを取りはずしたとき
　・増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

休止状態

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- Windows 98 の場合、ドライブ C を、Windows のシステムツールである「ドライブスペース」や市販の圧縮ユーティリティで圧縮すると、休止状態が使用できなくなります。休止状態を使用する際は、元の状態に復元してください。
- 休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。休止状態が無効になり、データが消失するおそれがあります。
- 休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリ充電量が減少すると、休止状態を実行して電源を切ります。休止状態が無効の場合、スタンバイ機能を実行して電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

電源オフ

Windows を終了して電源を切ります。

●スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める
ここにチェックを入れると Windows のパスワードを入力しないとスタンバイや休止状態から復活できないようになります。

[アラーム] タブ

バッテリ残量が少なくなったことをユーザに通知するためのサウンドやメッセージおよび実行する動作やプログラムを設定します。
[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合に表示されます。